

2025 年 10 月 28 日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	加藤万結	所属	グラフィックアーツ研究室
		職位	助教

研究課題	イタリアの文化と美術作品・建築物の研究
研究先機関	美術館、博物館、遺跡、教会など
主な滞在地 (国・都市名)	イタリア(ナポリ・ローマ・フィレンツェ・ミラノ・ヴェネツィア)、スペイン(バルセロナ)
渡航日程	2025 年 8 月 2 日 ～ 2025 年 8 月 15 日 ( 14 日間)
研究目的・理由	イタリアにある美術館や遺跡を巡り、古代ローマから始まりルネサンス、近代などそれぞれの時代の芸術について研究する。古くから残されている名画や壁画など貴重な美術作品を取材する。世界遺産や市街地の建築物、風土などの取材。
研究成果発表 予定 (展覧会、著書、論文発表等)	展覧会開催予定(2027 年 3 月)

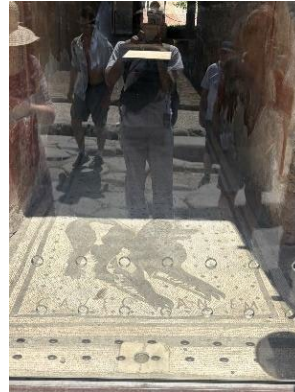
## 研究内容

今回の海外研修ではイタリアのナポリから始まり、ローマ、フィレンツェ、ミラノ、ヴェネチアの5大都市をイタリアの南から北へと向かった。各地の美術館や遺跡、教会を巡り地域ごとに異なる街の特性や建築物など取材した。スペインではサグラダファミリア大聖堂を主にガウディ建築について視察を行う計14日の海外研修となった。

実際に今回予定を立てて訪れた場所の多くはキリスト教中心にあり、ヴァチカン市国やローマなどのイタリア名所を知る中で重要な歴史背景であることがうかがえた。祈りを捧げるために世界中から集まった人々を実際に見て、体験することで文化をより深く知るきっかけとなった。

### [8/3 ポンペイ]

ナポリから電車で40分程電車に乗りポンペイに到着。ポンペイはおよそ2000年前にヴェスヴィオ火山の大噴火により一夜にして消えた古代ローマの都市である。発掘され2000年の歳月が立っていても当時の時が止まったままの状態であり、今でも街が破壊された爪痕がそのまま残されていた。それでもわずかな過去の痕跡の中から当時の人々の暮らしの想像を掻き立てる街であった。岩でできた神殿や一般市民向けの住居、その土地の王や長の家など一度破壊された街はかつて大きな都市で様々な施設が存在した。裁判所や調理場など様々な用途の施設があり、街が実際に機能していたことがわかった。



### 黄金天使の家

この住居はポンペイの街の中でも装飾が多く天使がモチーフの壁画や庭園の天使の像など特に豪華な住居であり、豊かな人々が住んでいたことがうかがえる。



ナポリサントルチア地区

ナポリ湾に面した海沿いの観光地であり海の向こうにはポンペイのヴェスヴィオ火山も見える。ナポリ中央駅の雰囲気とは変わり非常にゆったりとした時間が流れ、街を散策した。



ヌオーヴォ城



卵城



## 研究内容

王宮

美術館のように豪華な天井画や絵画と実際に使われていた調度品が並んでいた。

[8/4～6] ローマ・ヴァチカン市国

ヴァチカン市国にはサンピエトロ大聖堂へ向かう大行列の道を、世界各国から集まったカトリックの人々が皆国旗と十字架を掲げ、行進しながらカトリック教会の総本山へ向かう人々の姿が印象的でした。

世界最大級のキリスト教聖堂であり、たくさんの教皇の墓碑がありました。一つ一つの墓碑には彫刻や絵画などがありその下で教皇たちがマスクをつけ教皇の衣服を身に着けて永遠に眠る姿を見守りました。





## ヴァチカン美術館

歴代の教皇たちが集めた数々の芸術作品が展示され、多岐にわたる種類の貴重な作品を鑑賞することができた。絵画や彫刻、タペストリーなど大小の美術館に分かれ展示されている。大理石の床から壁面、天井に至るまですべてが煌びやかでした。ラファエロやダヴィンチなどの巨匠作品や名画があちこちに並ぶ。キリスト教を題材にした宗教画がコレクションの中では多く、ルネサンス～現代に至るまで様々な時代の宗教画が集められていた。なかには藤田嗣治の宗教画も展示されていた。

システィーナ礼拝堂の最後の審判は写真撮影不可でしたが、毎日一区画描き上げると決めて四年間毎日向き合っていた姿を想像すると、絵のサイズも大きいうえに圧倒的な画力も相まって、常人では到底成すことができない仕事量、尋常ではない精神力を感じました。



## 研究内容

### [ローマ]

ローマではコロッセオ、フォロロマーノへの取材、街中の教会や広場を散策しました。

コロッセオは古代ローマの時代に闘技場として剣闘士が猛獣と戦い観客へ娯楽を提供する施設として使われていた。コロッセオの中の柱には3種類のモチーフが施されていて、植物、獣などを模った装飾が施されていた。中世に地震もあったがそのままの姿を現在でも見る事ができた。



### フォロロマーノ



研究内容

[8/6～8] フィレンツェ

ウフィツィ美術館の見学、ドゥオモの見学。

街中のいたるところに様々な彫刻作品が展示され、街中が美術館のよう。昔から画家も多く住んでいたため画材屋も多く立ち並ぶ芸術の街。

ウフィツィ美術館では、初期ルネサンスから始まり盛期ルネサンスと順路が進み、ボッティチェリのプリマヴェーラやヴィーナスの誕生、レオナルドダヴィンチの受胎告知などの美しい数々の名画を鑑賞した。



フィレンツェのドゥオモは丸いクーポラが象徴的な街のシンボルでした。クーポラの内側にも美しい天井フレスコ画が描かれ、入り口のファサードは華やかな色調の大理石で作られている。花の都と言われるように明るく暖かな雰囲気が現存された美しい街であった。

[8/8～9] ミラノ

ミラノはこれまで訪れたイタリアの街並みとは少し異なりビルや近代的な建物も混ざった街。そしてミラノのシンボルであるドゥオモ大聖堂は、世界最大級のゴシック建築であり尖塔や美しいステンドグラスや祭壇、外部と内部に装飾された彫刻の数々など細部まで精巧に作られ約 500 年もの間建築され続けた。建物外にガーゴイルが多く彫刻されているが、排水溝を兼ねており口から水が出てくるという芸術性と機能性が合わさり細部までこだわりが詰まっていた。





### 最後の晚餐

レオナルドダヴィンチ作の壁画。サンタマリアデッレグラツィエ教会の敷地内の小さな別の建物のなかにあり、一人 15 分だけ壁画のある部屋を見学することが出来た。初めて目にする名画はこれまで何度もテレビや雑誌などのあらゆる媒体を通し見ていた為これが本当に本物を見ているのか、スポットライトにぼんやりと照らされていることも相まってまるで幻を見ているかのようであった。



### [8/10～11 ヴェネツィア]

ミラノから新幹線乗り継ぎ 4 時間ほどかけてヴェネツィアへ到着。駅から降りた瞬間からもう車はなく水上の街が広がっていた。

主な交通手段は船がメインであり、徒歩で街中を歩くも地図やアプリの案内もあまりあてにできず徒歩で長距離移動することは難しい。きれいな街並みの中で突然細い道に迷い込み引き返すこともあり、本当に迷路のような街でしたが、散策するなかで見る街並みはここにしか存在しないような貴重な景色がたくさん存在しました。

### サン・マルコ寺院

建物内部は全体が黄金に輝く装飾とモザイク画が広がるビザンティン様式の寺院。ビザンティンでありながらひとつの建物にロマネスク、ゴシック、ルネサンス、多数の建築様式が混ざり合って作られている。



## サン・ジョルジョ・マッジョーレ教会

サンマルコ寺院の広場の対岸に浮かぶ島にこの教会はある。ヴァポレットで移動し島に上陸すると、観光スポットの中でも知る人ぞ知る場所なこともあり静かで穏やかな時が流れていた。

エレベーターに乗り塔に昇るとヴェネツィアを一望でき、この街でどれだけ船が動いていたのか、小さな島が周りにたくさんあったことなどを知ることが出来た。



## [8/12～14 スペイン・バルセロナ]

ヴェネチアから飛行機でスペインのバルセロナへ向かい、建築家アントニ・ガウディの建築を中心に、ガウディ公園、サグラダファミリア、カサ・バトリョを取材した。

ガウディは自然の植物や現象などから着想を得た構造を建築物へ落とし込み、美しい形と実用性を兼ね備えた設計を作り出していた。

### ガウディ公園

当初は住宅街になる予定だったが今は公園になっている。入り口付近はお菓子の家のような建物や鮮やかなタイルの模様広場などがあり、ほとんどは山をハイキングできる自然の公園。遠くからのサグラダファミリアも眺めることが出来た。





### カサ・バトリョ

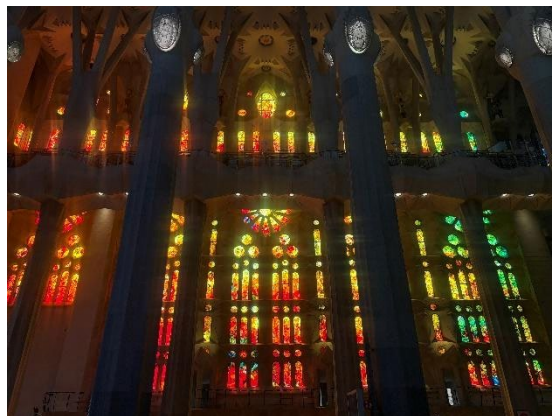
かつて邸宅として使われていた。水の中をモチーフとし、窓の形、ドアノブの形などすべての形や色合いにも水の形や色から着想を得た美しい建築物。壁やドアには自然換気ができる通気口も多く作りられ、斬新なデザインの中に実用性もかねて作られている。



### サグラダファミリア

入り口から最初に見える生誕のファサードにはマリアに捧げる部分として数々の彫刻があり、対照的に聖堂内は一体のイエスキリスト以外には彫刻はなく、日の光の様な色合いのステンドグラスと木々のような白い柱と天井が広がっていた。

暖かい夕焼けのような色のステンドグラスが今までで見た人工物の中で一番美しかった。塔を昇ると近くで上部にある彫刻を近くで眺めることができ、日本人彫刻家の外尾氏が作った果物の彫刻など。地下にはガウディがどのような自然の植物や現象から着想を得ているのか解説された展示やサグラダファミリアの歴史や設計についてなど、より理解を深めることができた。





大学授業における研究成果の還元

現地で取材した文化、美術作品の鑑賞した体験  
イタリア、スペインでは日本では体験することができない世界が広がっており、視察することができ非常に貴重な研修となった。この研修での体験をもとに作品へも織り交ぜて還元します。

研究日程（全滞在期間）

出発日 (現地時間)	出発地 (国・都市名)	到着日 (現地時間)	到着地 (国・都市名)	研究内容等	滞在 日数
8/2	日本・東京	8/2	イタリア・ナポリ	ポンペイ遺跡の探索、 サントルチア地区の取材	2 日
8/4	イタリア・ナポリ	8/4	イタリア・ローマ ヴァチカン市国	ヴァチカン美術館、コロッセオなど遺跡、市街地探索	3 日
8/6	イタリア・ローマ	8/6	イタリア・フィレンツェ	ウフィッツイ美術館、市街地	2 日
8/8	イタリア・フィレンツェ	8/8	イタリア・ミラノ	ドゥオモ大聖堂、最後の晩餐	2 日
8/10	イタリア・ミラノ	8/10	イタリア・ヴェネツィア	サンマルコ大聖堂、サン・ジョルジョ・マッジョーレ教会、街中を取材	2 日
8/12	イタリア・ヴェネツィア	8/12	スペイン・バルセロナ	ガウディ公園、サグラダファミリア、カサ・ヴァトリヨを視察	3 日
8/14	スペイン・バルセロナ	8/15	日本・東京		
備考					

以上

※ 欄が不足する場合は、適宜、行を挿入するなどして記入してください。別紙添付も可。

※ その他特記事項等がある場合は、備考欄に記入してください。